



森林ふれあい情報

国民の森林・国有林

平成23年 3月

第 18 号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151

E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

福島小学校へ出前授業

2月17日に福島小学校4年生47名を対象に出前授業の森林教室を行いました。

福島小学校では5年生からみどりの少年団に入団するために、森林学習や野外活動行事に参加する機会が増えることから、森林の働きや自然環境について事前学習として授業の運びとなりました。

学校側から事前に木曽地方特産の木曽五木の見分け方の説明と丸太切り体験要望があり、それに沿って授業が進められました。



日本の森林の割合はどれくらいでしょう

当日は木曽森林管理署ふれあい係長に手伝ってもらい、最初に日本や木曽地域での森林の割合などをクイズ形式で勉強した後、当ふれあいセンターで用意した木曽五木の葉を段ボール板に貼った見本で、葉脈の特徴などの説明をしました。



ヒノキの葉の裏はYの字があります

丸太切りの体験では、当ふれあいセンター職員がノコギリの使い方を指導してから作業にかかり、慣れない手つきながら同級生や先生の応援を受けて一生懸命ノコギリを引いていました。輪切りにされたヒノキ特有のいい香を嗅いで、作業の苦労を忘れていました。



いい調子だ、がんばれ！

木片は教室に持ち帰り、ペーパーをかけて絵や名前などを書き入れる予定でしたが、時間の都合で後日、図工の授業に完成させることになりました。

「城山史跡の森」巣箱掛け

「城山史跡の森倶楽部」では2月18日に城山国有林に小鳥の巣箱掛けを行いました。この巣箱は、平成18年に倶楽部が福島小学校や当時の木曽山林高校の生徒と協力して設置したのが始まりで、毎年秋に回収して営巣確認や壊れた部分の補修などをして取り付けているものです。



シジュウカラの営巣痕

昨年の営巣状態は、39箱中16箱に利用の痕跡がうかがえ、その他にはヒメネズミが運んだと思われる落ち葉が敷きつめられたものが、3箱ありました。



ネズミにかじられた入り口の修理

18日は会員が集まり、巣箱の清掃と壊れた部分の修理をして設置に向いました。現地への林道にはまだ雪が残り、車の走行に苦労しながら、今年の営巣を願って巣箱掛け作業を終了しました。



今年も多くの営巣を願って

生物多様性の保全が求められている昨今、イノシシによるササユリ球根の被害、クマによるサクラの枝折りなど歓迎されない面もありますが、四季を通じて小鳥のさえずりが聞こえる「城山史跡の森」であって欲しいと願うものです。

さらなる「城山史跡の森」 利用の兆し

県立病院機構・木曽病院が木曽郡内自治体と共に準備を進めてきた「森林活用セラピー」の実施地域が、すでに実施されている上松町に所在する赤沢自然休養林のほかに、木曽郡5町村6ヶ所が正式に決まりました。6ヶ所のうち4ヶ所に国有林

が含まれ、その一つに木曽町に所在する「城山史跡の森」が選ばれました。

森林セラピーの名称自体は登録商標であり、新たな名称も募集され、このほど“木曽路の森”セラピードックと決まりました。

セラピードックは事前に病院で健康チェックを受けて医師から森林散策のコースや歩き方などを処方してもらい、森林に出向き、処方に沿って森林内を散策することにより、心身を健全にするというもので、病院からも近い「城山史跡の森」は今まで以上に活用が期待されます。

市民タイムス

（1）日刊第12786号 読者 1月7日（金）

森林セラピードック

鳥居峠や阿寺溪谷でも 計7カ所決まる 新名称を公募

県立病院機構・木曽病院（木曽町）が、県内自治体と連携して実施している「森林セラピー」の活用地域が、このほど正式に決まりました。新たに上松町、木曽町、木曽郡5町村の6ヶ所に、計7カ所の活用地域が決定しました。また、この活用地域に適用される名称も公募されています。

セラピードックの実施地域
すでに実施
上松町 赤沢自然休養林
4月以降 赤沢自然休養林
木曽町 木曽川上流林
木曽郡 城山史跡の森
木曽町 阿寺溪谷
木曽郡 鳥居峠
木曽郡 阿寺溪谷
木曽郡 鳥居峠
木曽郡 阿寺溪谷
木曽郡 鳥居峠

退職します

日本の森林・林業を取り巻く状況は、厳しい中でも発展の兆しが見えます。そのためには、国民の目や足が国有林を始め森林に向くことが大変重要と考えます。

今年は国際森林年の年、まさに絶好のチャンスであり、この機会に、一人でも多くの人々を森林に誘う工夫が必要でしょう。

木曽谷には、人間を包み込む優れた森林が赤沢を始め、阿寺、油木、水木沢そして城山などに実に多くあります。

この3月31日付けで、田口と藤田修平は、当ふれあいセンターを最後に国有林を退職することとなりましたが、支えていただいた皆様に感謝申し上げますとともに、木曽谷を始めとする日本の森林と国民の交流がさらに発展することを祈念し、お別れいたします。本当にありがとうございました。